

第8回周南コンビナート脱炭素推進協議会 議事要旨

開催要領

日時 令和5年12月26日(火) 15:00~17:00
場所 周南市役所 多目的室(シビックプラットホーム1階) ※WEB併用
出席者 【構成員】(敬称略)
藤井 律子 周南市長
辻 佳子 公益社団法人化学工学会
地域連携カーボンニュートラル推進委員会委員長
東京大学環境安全研究センター 教授
三品 鉄路 出光興産株式会社 執行役員 徳山事業所長
吉水 昭広 東ソー株式会社 取締役 常務執行役員 南陽事業所長
奥野 康 株式会社トクヤマ 執行役員 徳山製造所長
藤池 一博 日鉄ステンレス株式会社 常務執行役員 山口製造所長
宮城 孝一 日本ゼオン株式会社 徳山工場 執行役員工場長

【オブザーバー】(敬称略)

土屋 博史 経済産業省 製造産業局 素材産業課 課長
鈴木 純 国土交通省 中国地方整備局 宇部港湾・空港整備事務所 所長
塚田 源一郎 環境省 地球環境局 地球温暖化対策課
地球温暖化対策事業室 室長
日比野 佑亮 林野庁 林政部 木材利用課 木質バイオマス推進班 課長補佐
※代理出席
大川 真一 山口県産業労働部 理事 産業脱炭素化推進室 室長
稲葉 和也 周南市水素利活用協議会 会長
山口大学 大学院技術経営研究科 教授
福代 和宏 周南市木質バイオマス材利活用推進協議会 会長
山口大学 大学院技術経営研究科 教授

【補佐人】(敬称略)

松方 正彦 公益社団法人化学工学会 会長
早稲田大学理工学術院先進理工学部 教授
石戸 利典 公益社団法人化学工学会
株式会社 IHI エグゼクティブフェロー
阿尻 雅文 公益社団法人化学工学会
東北大学 材料科学高等研究所 教授

藤井 実	公益社団法人化学工学会 国立研究開発法人 国立環境研究所
水口 能宏	公益社団法人化学工学会 日揮ホールディングス株式会社 執行役員 CTO サステナビリティ協創ユニット
今井 博文	出光興産株式会社 製造技術部 担当部長
具嶋 文彦	出光興産株式会社 徳山事業所 担当部長
上村 啓治	出光興産株式会社 CNX 戦略室 CNX 企画課 担当マネージャー
深澤 有紀	出光興産株式会社 CNX 戦略室 CNX 企画課
大塚 雄一郎	出光興産株式会社 徳山事業所 管理課
松村 善則	東ソー株式会社 執行役員 南陽事業所 副事業所長 兼 CO2 削減・有効利用 南陽タスクフォースチームリーダー
土谷 和寛	東ソー株式会社 南陽事業所 CO2 削減・有効利用 南陽タスクフォースチーム
鈴川 博之	東ソー株式会社 南陽事業所 事業所長室 技術管理グループ
塩川 豊	東ソー株式会社 執行役員 CO2 削減・有効利用戦略室 室長
浅野 浩司	東ソー株式会社 CO2 削減・有効利用戦略室 グループリーダー
末本 裕貴	東ソー株式会社 CO2 削減・有効利用戦略室
松本 和也	東ソー株式会社 技術センター 生産技術室 グループリーダー
河野 敦之	株式会社トクヤマ 徳山製造所副所長 兼 工場企画運営グループリーダー
小松 康尚	株式会社トクヤマ カーボンニュートラル企画グループ 主席
中本 達也	株式会社トクヤマ カーボンニュートラル企画グループ 主席
大森 一幸	株式会社トクヤマ カーボンニュートラル企画グループ 兼 工場企画運営グループ 主席
佃 宣和	日鉄ステンレス株式会社 山口製造所 生産技術室長
棚田 裕一郎	日鉄ステンレス株式会社 山口製造所 総務室長
平川 宏之	日本ゼオン株式会社 カーボンニュートラル統括推進部門長
渋谷 智啓	日本ゼオン株式会社 カーボンニュートラル統括推進部 理事
本間 彰	日本ゼオン株式会社 徳山工場 副工場長 兼 脱炭素推進準備室長
藤村 佳樹	日本ゼオン株式会社 徳山工場 脱炭素推進室員
泉水 慶太	日本ゼオン株式会社 カーボンニュートラル推進室長
谷地 義秀	日本ゼオン株式会社 カーボンニュートラル研究開発推進室長
入野 真一	日本ゼオン株式会社 原料部

【陪席・随行】（敬称略）

井出 大士	経済産業省 製造産業局 素材産業課 課長補佐
佐野 徹	経済産業省 製造産業局 素材産業課 課長補佐
浜本 幸男	経済産業省 中国経済産業局 電源開発調査官
河村 浩芳	経済産業省 中国経済産業局 資源エネルギー環境部 資源エネルギー環境課 カーボンニュートラル推進・エネルギー広報室 総括係長
山口 慎介	国土交通省 中国地方整備局 宇部港湾・空港整備事務所 企画調整課 課長
藤村 悠司	国土交通省 中国地方整備局 宇部港湾・空港整備事務所 企画調整課 港湾保安調査官
勢登 俊明	山口県産業労働部 産業脱炭素化推進室 主査

【事務局及び関係課】

道源 敏治	周南市副市長
上野 貴史	周南市産業振興部 部長
荒美 雅丈	周南市産業振興部 次長 兼 商工振興課 課長
吉村 涉	周南市産業振興部 商工振興課 コンビナート脱炭素推進室 室長
山根 正敬	周南市産業振興部 商工振興課 コンビナート脱炭素推進室 室長補佐
井尻 帆乃香	周南市産業振興部 商工振興課 コンビナート脱炭素推進室
松尾 陽加	周南市産業振興部 商工振興課 コンビナート脱炭素推進室
川口 洋司	周南市企画部 部長
河本 浩	周南市環境生活部 部長
山田 将之	周南市環境生活部 環境政策課 課長

議事次第

- 1 開会
- 2 会長挨拶
- 3 副会長挨拶
- 4 議事
 - (1) 事務連絡事項
 - (2) 報告事項
 - ①ワーキンググループの議論について
 - ②各チームの進捗について

(3) その他

5 閉会

議事録

1. 開会

(事務局)

それでは、ただいまから、「第8回周南コンビナート脱炭素推進協議会」を開催いたします。

私は、本日、進行を務めます、周南市産業振興部次長の荒美と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、次第のとおり進行し、終了時間を17時と予定しております。本来であれば、御出席の皆様を御紹介するところでございますが、時間の関係上、配布しております出席者名簿と配席図をもちまして、御紹介に代えさせていただきます。

なお、本日の会議につきましては、冒頭のみ部分公開とさせていただきます。それでは、開会にあたり、会長ならびに副会長から挨拶をいただきたいと思います。最初に、会長の藤井市長、よろしくをお願いいたします。

2. 市長あいさつ

(会長)

皆様、こんにちは。周南市長の藤井律子でございます。

本日は、年末の大変御多用のところ、第8回周南コンビナート脱炭素推進協議会に御出席を賜り、誠にありがとうございます。開会にあたりまして、一言御挨拶申し上げます。

本協議会におきましては、本年5月、2050年のあるべき姿、理想像として「周南カーボンニュートラルコンビナート構想」、そして、その道筋を示すロードマップを策定し、皆様方にお示しをさせていただきました。

この構想では、「原料のカーボンニュートラル化」、「製品のカーボンニュートラル化」、「CO₂の固定化・活用」、「エネルギーの脱炭素化」といった4つのチャレンジを設定し、現在においては、アンモニアやCO₂、バイオマス、排熱循環など、カーボンニュートラルに向けたテーマごとのチームを編成し、取組の具体化に向けて、課題の精査、新技術導入の検討など、幾度となく協議・検討を重ねているところです。

周南コンビナートの脱炭素化は、本市にとりましても最重要課題の1つです。私は5月の協議会冒頭、「周南コンビナートの2050年カーボンニュートラル実現、そして、本市のパーパスとして掲げる「2050年を乗り越えられる周南市」を推進していく上で、構想を実現することが、この協議会に課せられる使命」と述べさせていただきました。

変わらぬ強い決意のもと、様々な課題や困難に向き合い、皆様と一体となってカーボン

ニュートラル実現に向けて、全力で取り組んでまいります。

その一端として、先日閉会しました12月市議会定例会におきまして、企業立地促進条例の補助対象に新たにカーボンニュートラル推進事業を加えるとともに、企業の皆様の巨額の投資に対応できるよう補助上限額を3億円から10億円へと拡大するなどの改正を行いました。

微力ながら、市としましても皆様のカーボンニュートラルの取組みを支援させていただきたいと思っております。

本日は、各チーム主査からこれまでの検討事項や進捗状況の御報告などをいたします。

本日オブザーバー参加をいただいております皆様方には、それぞれのお立場からぜひ忌憚のない御意見などを頂戴できれば幸いです。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

(事務局)

ありがとうございました。続きまして、副会長の公益社団法人化学工学会の辻佳子様、よろしく願いいたします。

3. 副会長挨拶

(化学工学会 辻)

協議会を立ち上げてもうすぐ2年になります。私たちは地球規模の課題である温暖化を阻止する一つ的手段としてカーボンニュートラルを目指しています。そして、日本の中の瀬戸内において果たすべき役割を考えながら議論をしています。

日本が豊かであり続けて、真の持続可能な社会を目指すためには、日本で雇用をしっかりと確保することが大事になります。そのためにも、ものづくりを発展的に継続することを前提にグランドデザイン実現のための議論をしてきました。

特に今年は、エネルギー、熱、熱循環のための廃棄物、バイオマス、反応に伴い物質として発生する二酸化炭素に関するチームディスカッションを進めてきました。全チームに全構成企業に参加いただき、化学工学会のメンバーも加わり濃密な議論をしています。チームには、主査企業を設定しており、取りまとめていただくとともに、定期的な主査ミーティングも行っています。

企業の皆様は自分事として真剣に議論をしており、時には揉め、時には落ち込み、時には笑いながら進めています。昨日も直前まで議論したために、オブザーバーの皆様は事前に資料を送ることができず大変申し訳ございませんでした。

2050年はすぐそこです。カーボンニュートラル社会のあるべき姿に向けて、本日は、オブザーバーの皆様にも御意見をいただくことができることを大変ありがたく思います。

引き続き、周南が日本の、そして世界のモデルになるべく真剣に、かつ明るくワンチー

ムで邁進していきたいと考えております。本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

(事務局)

ありがとうございました。

ここで報道関係者の皆様にお願ひがござひます。事前に御案内させて頂きましたとおり、本協議会の撮影・取材はここまでとさせていただきます。大変申し訳ありませんが、御退出をお願ひします。